

## 三国名勝図会に記載された江戸時代の鹿児島湾における水産物

山本智子<sup>1</sup>・山田勝雅<sup>2</sup>・宮本 康<sup>3</sup><sup>1</sup> 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部<sup>2</sup> 〒 860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター<sup>3</sup> 〒 919-1331 福井県若狭町鳥浜 122-12-1 福井県里山里海湖研究所

## はじめに

三国名勝図会は、江戸時代後期に薩摩藩 10 代藩主島津斉興の命によって編纂された地誌である。薩摩藩の領内である薩摩国、大隅国及び日向国の一部について、地史や名所、その由来や名産物を記載しており、橋口兼古、五代秀堯、橋口兼柄らによって 1843 年にまとめられた。地域で産出する葉種類、野菜類、花草類、果実類、飛禽類（鳥類）、走獣類（獣類）、鱗介類（魚介類）が記載されていることから、当時の農水産業の状況を垣間見ることができる。

江戸時代は新田開発が盛んに行われた時代であり、その手法の一つとして、遠浅の海や干潟を締め切って排水し、陸地化する干拓が行われてきた。薩摩藩でも出水平野と鹿児島湾奥を中心に干拓が行われ、天保年間前後（1830-50 年）には、揖宿で 10ha、湾奥の加治木で 12ha、國分で 120ha の農地が整備された（鹿児島県土木課，1934）。

1843 年に完成した三国名勝図会は、地域によっては海岸線に人工的な改変が加えられる前の状況を記述している可能性がある。そこで本研究では、鹿児島湾沿岸の各地域について、三国名勝図会から鱗介類の項目に記載のある海産物を抽出し、地域間の比較を行った。

## 材料と方法

資料としては、原口虎雄の監修によって 1982 年に出版された復刻版を使用した（原口，1982）。

和綴じ本全 60 巻の内容を 4 巻と総索引にまとめた中から、鹿児島湾沿岸の地域を扱った巻のみ抽出し、その中の鱗介類に記載されている種をリスト化した。魚類、軟体動物、節足動物、棘皮動物が記載されているが、純淡水産と考えられるものは削除し、汽水産あるいは回遊種は対象とした。また、野菜類の項目に藻類、海苔類の記載がある場合はリストに入れた。漢字や振り仮名から種名を調べ、複数の種や分類群を指している可能性があるものもできるだけ絞り込むようにした。

対象とした地域は、薩摩半島南端から湾奥に向かって、薩摩国揖宿（いぶすき）郡、給黎（きいれ）郡、谿山（たにやま）郡、鹿児島郡と続き、湾奥から大隅半島南端に向かって、大隅国始良（あいら）郡、嚙喉（そい）郡、肝属（きもつき）郡、大隅（おおすみ）郡である。いずれも複数の邑（むら）を含んでおり、邑ごとに分けて情報を整理した。

## 結果と考察

海苔や海藻も含めて 51 の種又は分類群が記載されていた（表 1）。魚類が 36、甲殻類は龍蝦（イセエビ）のみ、棘皮動物も海鼠（ナマコ）と記載されているもののみであった。烏賊（イカ）・章魚（タコ）を含む軟体動物は 10 分類群が捕られており、魁蛤（アカガイ）や平貝（タイラギ）、杓子貝（イタヤガイ）など二枚貝類は細かく区別されていた。海藻類はアオサ・アオノリなど緑藻

Yamamoto, T., K. Yamada and Y. Miyamoto. 2022. Fisheries products of Kagoshima Bay in the Edo period listed in the Sangoku Meisho Zue. *Nature of Kagoshima* 48: 383-387.

✉ TY: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: yamamoto@fish.kagoshima-u.ac.jp).

Received: 29 March 2022; published online: 30 March 2022; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_048/048-057.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-057.pdf)

表 1. 各都・邑の項目に記載されていた水産物。外洋魚（表内の番号 1-3）から深海魚（26）、沿岸の底生魚（30-34）、回遊魚（35-36）の順に並べ、その下に甲殻類（37）、貝類（軟体動物）（38-47）、ナマコ類（棘皮動物）（48）、海藻類（49-51）の順で並べた。資料中の記載や解釈を必要とする事項、表記できない漢字などの注釈は片括弧数字で示している。

文献中の漢字	標準和名	文献中の振仮名	揖宿（いぶすき）郡			給黎（きいれ）郡	谿山（たにやま）郡
			揖宿 指宿市	今泉 指宿市	山川 指宿市	鹿児島市 27)	鹿児島市 28)
種名が不明確なもの							
1 松魚	カツオ						
2 鱈 1)	カジキマグロ?	しび	●	●		●	●
3 鱈 2)	マグロ	しび					
4 海鶏魚・鍋蓋魚・海（鳥偏に缶）魚	エイ?	えい					
5 海鱈	イワシ	いはし					●
6 鱈残魚	シラウオ	しらうを					●
7 鮃 3)	シラウオ	きす					
8 鱈	ボラ	ぼら・いな	●	●	●	●	
9 鱈	スズキ	すずき					
10 石首魚	イシモチ?	ひうち					
11 方頭魚	アマダイ	くずな あまだい	●	●	●	●	
12 黄魷	ハナオレダイ	あまだい					
13 鱈 4)	ブリ	ぶり	●10)				●
14 鱈	アジ	あぢ	●	●		●	●
15 鯉	ムロアジ	むる	●	●		●	
16 金線魚	イトヨリ	いとより	●	●		●	
17 刺魷魚	タイ	たひ	●	●	●	●	●
18 海鰻	マナガツオ						
19 鯖	サバ	さば	●	●	●	●	●
20 馬鮫	ヨコシマサワラ						
21 梭魚	カマス	かます				●	
22 火打魚 5)	ミナミハタンポ						
23 日内魚 6)	ミナミハタンポ?	ひうち					
24 鶏魚	イサキ						
25 鱈	アラ?						
26 華睛魚	アンコウ						
27 帶魚	タチウオ					●	
28 鯉	メバル	めばる					
29 鰻 7)	カジカ?イシダイ?	ひさ					
30 牛尾魚	コチ	こち					
31 狗母魚	エソ	えそ				●	
32 鱈	カレイ	かれい					
33 比目魚	ヒラメ・カレイ				●		
34 藻魚	メバル・ベラ・ハタ・カサゴなど						
35 鰻鱺	ウナギ						●
36 香魚	アユ	あゆ					●
37 龍蝦	イセエビ	いせえび	●	●		●	
38 烏賊	イカ	いか	●	●	●	●	●
39 章魚・蛸	タコ	たこ	●	●	●	●	●
40 油螺	ツブ					●	
41 貝諸種	シッタカ						
42 螺獅諸種		みな 8)	●	●		●	
43 魁蛤	アカガイ	あかがい	●		●11)		
44 蛤貝諸種	ハマグリ類		●	●		●	
45 杓子貝	イタヤガイ 9)					●	
46 玉珧・平貝	タイラギ	ぎょくえう					
47 月日貝	ツキヒガイ						
48 海鼠	ナマコ	なまこ					
49 青海苔	アオノリ						
50 諸海苔	ノリ		●			●	
51 海藻	カイソウ	も					
総計			16	13	9	20	12

表1. 続き.

	鹿児島(鹿児島)郡	始羅(あいら)郡			嚙喉(そい)郡			肝属(きもつき)郡		
	鹿児島市	重富 始良市	加治木 始良市	帖佐 始良市 27)	國分 霧島市	敷根 霧島市 29)	福山 霧島市 27)	新城 垂水市	花岡 鹿屋市	鹿屋 鹿屋市 32)
1							●		●	
2			●18)				●			●
3								●	●	
4	●12)						●21)			
5										
6										
7								●		
8		●	●	●				●		●
9	●	●	●							●
10		●17)								
11	●13)			●					●	
12			●							
13		●	●			●20)	●	●22)		
14	●	●	●	●				●		●
15										
16	●		●					●	●	
17	●14)	●	●	●			●	●	●14)	●
18										
19		●	●	●				●		●
20										
21				●				●		
22			●	●						
23						●	●			
24			●	●						
25										
26			●	●						
27		●				●	●			
28										
29										
30										
31								●		
32										
33										
34										
35	●			●	●					
36	●	●15)	●	●						●
37			●						●	
38	●	●	●	●			●	●	●	
39	●	●	●	●			●	●	●	●
40										
41			●							
42										
43										
44		●		●						●
45										●
46					●19)			●23)		
47								●		
48	●	●16)								
49										
50		●	●	●			●	●		
51										
	11	14	18	16	2	4	11	16	8	11

表 1. 続き.

	大隅 (おおすみ) 郡					
	桜島 鹿児島市 30)	牛根 垂水市 27), 31)	垂水 垂水市	小根占 南大隅町 33)	大根占 南大隅町 34)	佐多 南大隅町 33), 35)
1	●	●	●	●	●	●
2	●	●	●		●	●
3	●24)	●			●	
4	●25)					
5					●	
6						
7						
8		●		●		●
9	●	●		●	●	●
10	●					
11	●			●	●	
12	●	●		●	●	
13	●	●	●	●	●	●
14	●	●	●	●	●	●
15	●			●	●	●
16		●		●	●	
17	●	●	●	●	●	●
18	●			●	●	
19		●	●	●	●	●
20						●
21	●	●				●
22						
23						
24						
25	●			●		●
26	●	●				
27	●	●			●	
28	●	●				
29	●					
30	●					
31						
32	●	●				
33						
34	●	●	●			
35						
36		●		●		
37				●		
38	●	●	●	●	●	●
39	●	●	●	●	●	●
40						
41		●				
42	●			●		●
43						
44	●			●	●	●
45						
46						
47						
48						
49			●		●	
50	●		●	●	●	●
51	●					
	29	23	11	20	20	18

注釈

- 1) しびと仮名が振られているが、漢字はチョウザメ・カジキの意
- 2) 鮪; しびと振り仮名
- 3) キスと仮名が振られているが、漢字はシラウオの意

- 4) 赤白二種と付記された箇所あり
- 5) ミナミハタンボの方言名
- 6) 「方言、形状小鯛に類して少し円く...」
- 7) ヒサ (=イシダイ) と仮名が振られているが、漢字はカジカの意
- 8) ミナ; スガイ類やクボガイ類を指す
- 9) 杓子貝; シャクシガイ・イタヤガイ。食用になるのはイタヤガイと思われる
- 10) 「方言にそちといふ」
- 11) 「塩醃にして多く本府に出す、當邑の名産なり」
- 12) 海鶏魚と書いてえいと振り仮名
- 13) くずなど振り仮名
- 14) 吉蟹と書いてたいと振り仮名
- 15) 溪鱈と書いてあゆと振り仮名
- 16) 沙 (魚編に巽) と書いてなまこと振り仮名
- 17) 「方言火打魚、此魚諸方に廣く産せず、本藩の内、當邑の海上より福山の海上まで産す」
- 18) 鱒魚=しび「當邑黒川崎の海中産す、當邑の絶品なり、...」及びしびのしほからと記載
- 19) 玉瑠 (ぎょくえうと仮名) 「俗にたいらぎと云、其形烏帽子に似たる大なる貝なり、烏帽子貝とも呼ぶ、味甘美、名物なり」
- 20) あじと仮名あり
- 21) 海 (鳥偏に缶) 魚; えいと振り仮名
- 22) そちと振り仮名
- 23) 平貝; 仮名なし
- 24) ふかと振り仮名
- 25) 鍋蓋魚と書いてえいと振り仮名
- 26) 藻蟹; 「當邑の海上に産す、其蟹の状、甚細にて紅し、是を醃 (シホツケ) にして、魚團に和えて食するに、味尤美なり、當邑の名産なり」
- 27) ちんと振り仮名。イシダイか?
- 28) 安加奈 (イトヨリ?); 振り仮名なし。「金線魚に似たり」
- 29) 火歩魚; 方言とのみ記載
- 30) 魚編に髑
- 31) 魚編に吾
- 32) 鯉
- 33) 腹魚; アワビ・フグ・マハゼ
- 34) 浦煮 (スルメ)
- 35) 胡鯨魚 (ハゼ?)

を指すと思われる青海苔と諸海苔が分けられており、さらに 1 カ所ではあるが海藻 (も) という記載があった。これはヒジキなどの褐藻類を指すと思われる。

広く湾内のどこでも捕られているのは、鰯 (アジ)、刺鰻魚 (タイ)、鯖 (サバ)、イカ、タコであった。鱒 (カジキマグロ?), 鰯 (ボラ), 方頭魚 (アマダイ), 鱧 (ブリ), 金線魚 (イトヨリ) なども、薩摩半島側と大隅半島側の両方で捕られている。一方で、松魚 (カツオ) と鮪 (マグロ) は大隅側でしか記載されておらず、現在とは状況が異なるようである。ただし、薩摩半島の東シナ海側や三島、北薩では多くの地域で松魚 (カツオ) が記載されている。鰻鱺 (ウナギ) は湾奥の数カ所で、香魚 (アユ) は湾奥と大隅半島

側で記載があった。蛤貝諸種（ハマグリ類）は広く利用されていたようだが、タイラギや月日貝（ツキヒガイ）の二枚貝は湾奥に限られていた。諸海苔（ノリ）も幅広い地点で記載があり、イワノリが利用されていたのではないかと考えられる。

江戸時代に海岸の開発が進んだと思われる湾奥部に着目すると、1845年から大規模な干拓が行われた國分では、ウナギとタイラギの2種だけが記載されている。ウナギが回帰する川とタイラギが採れる干潟があってハマグリ類などが生息しないということは考えにくく、漁業への依存度が低かった可能性がある。隣接する始良郡では多くの海産物が挙げられており、華臍魚（アンコウ）のような深海魚からウナギやアユ、ハマグリやナマコが記載されており、幅広く海産物を利用していたことがうかがえる。最も多くの海産物が記載されていたのは、桜島（29）と牛根（23）である。どちらも貝類の利用は少なく、深海魚から鰈（カレイ）や藻魚と呼ばれる底生魚まで、様々な環境にすむ魚類を利用していたようである。

以上のように、文献で見える限りでは、江戸時代後期に鹿児島湾内で利用されていた魚種は、現在水揚げされている魚種に重なるものが多い。魚類以外については、イセエビやタイラギ、ツキヒガイなど、現在は利用できないものが採られていた。地域ごとに見ると、種数や種構成がかなり異なっており、さらに詳細に見ることで当時の海岸線の状況や海洋環境に関する情報が得られると思われる。

## 謝 辞

本研究は、鹿児島大学付属図書館所蔵の文献を用いて行われ、科学研究費助成事業（18K05699）の助成を受けた。関係者に深く感謝します。

## 引用文献

- 原口虎雄（監修）. 1982. 三国名勝図会. 図書出版青潮社, 熊本. 1077 pp.
- 鹿児島県土木課. 1934. 鹿児島県維新前土木史. 鹿児島県土木課, 鹿児島. 260 pp.